### 【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

### 学校の概要(平成15年4月)

学校名	秦野市					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	6	6	6	1	1 9	
生徒数	2 1 6	2 1 2	2 3 1	4	6 6 3	4 0

## 研究の概要

. 研究主題 自ら学ぶ意欲をもち、確かな学力をつける学習指導

- 個に応じた指導の工夫・改善を通して -

2.研究内容と方法 (1)実施学年・教科 1.1・2年英語、1年数学を中心とする。少人数での指導を行っているのでテーマ に沿った指導ができる。

# (2)年次ごとの計画

平 自ら学ぶ意欲をもち、確かな力をつける学習指導

仮説 成

年

度

各教科の基礎・基本を重点化し、系統性を踏まえながら、生徒一人ひとり 14

の興味、能力、適性に応じた指導法の工夫をすれば、自ら学ぶ意欲が育ち、

確かな力を身につけることができるであろう。

研究内容・方法

基礎・基本を分析、明確化し重点化を図る。

少人数学習(英語科)における個に応じた指導法の工夫。

₹77	_	$\overline{}$
31/		<b>、</b> /
_	,	

自ら学ぶ意欲をもち、確かな学力をつける学習指導

仮説 成

各教科の基礎・基本を重点化し、系統性を踏まえながら、生徒一人ひとり

の興味、能力、適性に応じた指導法の工夫をすれば、自ら学ぶ意欲が育ち、 15 確かな力を身につけることができるであろう。

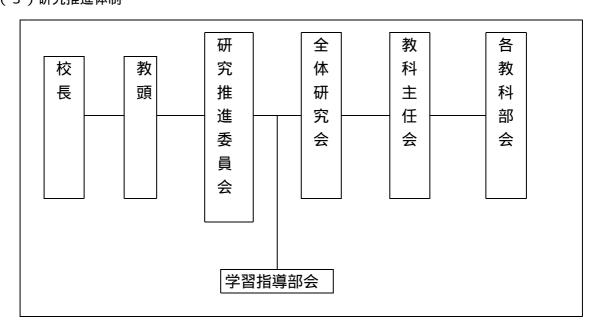
年 研究内容・方法

基礎・基本を定着させるための指導法の工夫。

学生、地域の指導者を学習ボランテ大ィアとして導入し学力向上を図る。 度

平 テーマ 自ら学ぶ意欲をもち、確かな力をつける学習指導 仮説 成 各教科の基礎・基本を重点化し、系統性を踏まえながら、生徒一人ひとり の興味、能力、適性に応じた指導法の工夫をすれば、自ら学ぶ意欲が育ち、 16 確かな力を身につけることができるであろう。 年 研究内容・方法 基礎・基本を定着させるための指導法の工夫、教材の開発。 度

(3)研究推進体制



## 平成15年度の研究の成果及び今後の課題

- ・今年度初めて学力検査(教研式標準学力検査)を行ったが、英語科では全国平均を上 回る結果であった。
- ・各教科で基礎・基本についてまとめたものができ、今後の指導で具体的に 取り組む ことができる。

- 2.今後の課題 ・英語科の学力検査の結果では全体的には全体を上回っていたが一部、全国平均に達し ていない項目があったので、それの改善をめざす。
- ・数学科の検査の結果では全国平均をかなり下回ったので、少人数指導でどれだけ改善 されるか取り組む。1年間での改善をみるため3月にも検査を行う。
- ・小学校との連携を検討する。
- ・各教科でまとめた基礎・基本の定着を目指す。

<u>学力把握のための学校としての取組</u> ・教研式標準学力検査(CRT)の実施(1年数学、2年英語)

数学科 7月 基礎的学力の調査

3月 少人数指導による改善の調査

英語科 7月 少人数指導の成果の調査

フロンティアスクールとしての研究成果の普及 ・8月29日秦野市立西公民館で研修会を実施

西中学校区の幼稚園、小学校、中学校教員、保護者、地域住民に研究の報告をし意見 を求め今後の研究の参考とする。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

14年度からの継続校 【新規校・継続校】 15年度からの新規校

【学校規模】 3 学級以下 4~6学級

7~9学級 10~12学級

13~15学級 16学級以上

少人数指導 T.T による指導 【指導体制】 その他

【研究教科】 国語 社会 数学 理科

> 外国語 音楽 技術・家庭 美術

> > 保健体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無